

(別紙) 次年度における機能検討方針

「活性化ゾーン」Dブロックの機能検討方針

令和8年3月改訂の「野洲駅南口周辺整備構想」(以下、「本改訂」という。)において、B、D、Eブロックを「活性化ゾーン」と位置づけ、中でも最も面積が大きいDブロックの機能配置の考え方を「新たな交流や活動を生み滞留・滞在につながる施設整備」と示しています。

本改訂の検討過程で、「人流創出」と「文化施設のあり方」の双方の観点から検討を行い、Dブロックの機能検討方針を①文化ホール大規模改修②エンターテインメントアリーナ整備③企業オフィス誘致と新小劇場整備の三案に絞り込みました。次年度は、この三案をベースとして検討を進めます。

<方針を踏まえた課題検証>

① 文化ホール大規模改修

長く市民に活用された文化機能を維持することは重要であり、文化ホールのあり方を検討する必要がありますが、老朽化が進んでいる状況です。改修設計を行った結果、想定以上の改修費用が見込まれることに加え、バリアフリー改修が十分に実施出来ない等の課題が明らかになりました。次年度は、これらの課題を踏まえ、改修による費用対効果と人流創出への寄与という面での検証を行います。

② エンターテインメントアリーナ整備

新たな交流や活動を生む施設として、エンターテインメントアリーナ整備が考えられます。近年のアリーナは、スポーツや音楽興行を観る機能に加え、MICE[※]機能や市民利用の側面を併せ持ち、プロスポーツチームの観戦から防災機能を含む市民利用まで、幅広いニーズに対応出来る事例が増えています。こうした事例を参考に検討を進めていきますが、一方で整備費用等が課題となるため、民間資金の活用や補助金の活用可能性を含め検証します。

※MICE とは、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントの総称であり、企業等の会議や国際機関・団体・学会等が行う国際会議、展示会等を指すものです。

③ 企業オフィス誘致と新小劇場整備

日常的な人流確保を目的とした企業オフィスを誘致することが考えられます。企業オフィスの誘致については、市内外からの一定の企業ニーズは見込まれると想定されることから、関係者へのサウンディング調査を通してニーズを把握した上で、実現性について検討します。また、新たな小劇場を整備することで、市民の文化活動拠点を確保できるのではないかと考えています。

<次年度の目指す姿>

Dブロックに配置する機能は、「活性化ゾーン」へ人流を生み出し、野洲駅南口周辺全体に、にぎわいを波及させる重要な役割であると考えています。そのため、次年度にDブロックの整備方針を定め、対象エリア全体の整備効果を高める基本計画を策定してまいります。